台東区立中央図書館
郷土・資料調査室報
2012・平成24年3月 第2号

昨年から郷土・資料調査室で行なってきた展示や行事をご紹介します。

浅草十二階 ～凌雲閣ノスタルジア～

2010年12月19日～2011年3月16日

明治23年から大正12年まで浅草の地にあった当時日本一の高さを誇る建物、凌雲閣。別名「浅草十二階」とも呼ばれ、高さは約52メートル。日本で初めて電動式エレベーターが設置された建物でもありました。

関東大震災によって倒壊し、その後取り壊しとなってしまいましたが、浅草・東京のランドマークとしてその姿は多くの錦絵・銅版画・絵はがきに残されています。また文学においては、明治から大正にかけての時代を象徴するものとして当時から今日に至るまで数多くの作品に登場しています。

本展では、絵はがき・開業当初の広告などの画像資料のほか、ご提供により凌雲閣に使用されていたレンガを展示することができました。特設本棚には凌雲閣が登場するものや当時の浅草界隈が描かれた文学作品、タワーやエレベーターに関する本などを集めてご紹介しました。

会期中3月11日に東日本大震災が発生しましたが、展示資料の落下や損傷はありませんでした。

郷土史講座「くずし字で読もう」

2011年2月18日・2月25日・3月4日

講師…加藤 芳典氏（文京ふるさと歴史館専門員）

博物館や美術館、図書館での展示をもっと楽しむために、「くずし字で資料を深く読んでみよう」をコンセプトにして、3回連続で講座を開催しました。往来物や名所図会などをテキストに、初歩的かつ実践的なくずし字読解方法を学習しました。

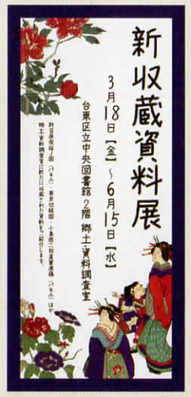
毎回、ポイントとなる事項をおさえてから、参加者各自でテキストを読んでみたり、答え合わせをしたり、テキストとなったものが書かれた時代背景や歴史のお話を聞いたりと、充実した内容となりました。

新収蔵資料展

2011年3月18日～6月15日

明治期の錦絵や博覧会記念絵はがき、戦時中に集団学童疎開先で撮影された写真、ゆかりの文学者の直筆原稿など、寄贈や購入により新たに郷土・資料調査室の収蔵品に加わった資料を、実物やパネルでご紹介しました。

電力事情のため、開館時間の短縮や一部で照明・空調を控えての開催となりました。



ゆかりの文学講座「広重の団扇絵と台東区界わい」

2011年6月5日

講師…奥田 敦子氏（墨田区文化振興財団学芸員）

初代歌川広重の画業としては、あまり知られることのなかった団扇絵。近年次々と発見され、研究がすすめられている広重の団扇絵を取り上げ、その題材となった台東区のかつての姿と文化・風俗について、たくさんの資料画像をあげて解説していただきました。

郷土・資料調査室 ゆかりの文学コーナー 今後の展示予定

開催中

「～浅草を見つめつづけた写真家～ 髙相嘉男写真展あの日の隅田川」

2012年6月20日まで

浅草花川戸に住んでいた写真家・髙相嘉男氏。寄贈された写真コレクションは、昭和30年頃から平成にかけて町の日常を切り取った、貴重な資料となっています。その中から、隅田川をテーマに展示を行なっています。

54年前の船渡御、今はもうない汐入の渡しなど、懐かしの風景に加え、髙相氏が愛用していた二眼レフカメラ、江戸から明治の資料に見る隅田川の様子もご覧いただけます。

汐入の渡し　（昭和32年撮影）

三社権現船渡御　（昭和33年撮影）

早慶レガッタ　（平成6年撮影）

次回展

「博覧会 最先端大集合！」

2012年6月22日～9月19日

（展示の名称・期間などは変更する場合があります）

明治から大正にかけて、上野公園では次々と大規模な博覧会が開催され、新しい時代の文化や技術の発信地となりました。当時整備された建物や設備の一部は、現在でも上野公園にその名残をとどめています。錦絵や出品目録、会場案内図などから、歴史をひもといていきたいと思います。

ここにも注目

ゆかりの文学コーナー展示特設本棚では、展示ごとに毎回4～5つほどのトピックを立てて、さまざまなジャンルからピックアップしてきた本や雑誌などで構成しています。展示に関する資料や文学作品を並べるだけでなく、その周辺に連なる分野にも範囲を広げて本・雑誌を集めています。

ケースに展示されているものも、本棚に並んでいるものも、どちらも貴重な資料です。これらが互いに補い合って、「ゆかりの文学コーナー」へいらっしゃった方々の新たな世界へとつながる扉となれば幸いです。

台東区立中央図書館　郷土・資料調査室

〒111-8621　東京都台東区西浅草3-25-16
TEL / 03-5246-5911
ホームページ
PC版　http://www.taitocity.net/tai-lib
携帯版　http://www.taitocity.net/taito-opac/mobile/index.jsp

開館時間
月～土曜日　午前9時～午後8時
日曜・祝日　午前9時～午後5時

■つくばエクスプレス「浅草」駅 A2出口から徒歩5分
■地下鉄日比谷線「入谷」駅 徒歩8分
■北めぐりん・南めぐりん「生涯学習センター北」徒歩2分
■都バス「入谷二丁目」停留所 徒歩1分

まつり

2011年6月17日～9月14日

「まつり」をキーワードに、寺社での祭礼だけに限定せず、季節の行事や市・イベントも含めて、台東区で開催されてきた新旧さまざまな「まつり」とその文化を取り上げました。

古くから寺社が多く、祭礼や大規模な市が行なわれてきた台東区。風物の名所も多く、四季折々たくさんの人々が訪れる土地柄でもありました。「まつり」の文化、そしてそれによって育まれた地域の連帯と協力体制、もてなしの心やサービス精神は、世代をこえて脈々と受け継がれています。

本展では、「東都歳時記」に残された江戸時代の三社祭の様子、錦絵に描かれた市に集まる人々の姿、昭和30年代頃の懐かしい風景などをご紹介しました。

中央図書館落語会「まつりと人情」

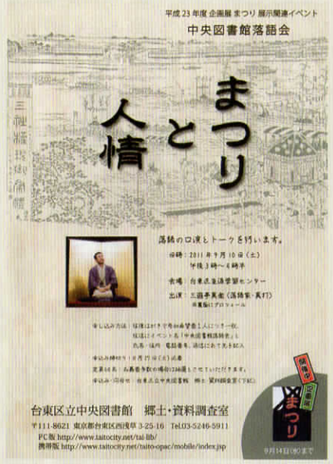
2011年9月10日

出演…三遊亭 真楽師匠（落語家）

前年度ご好評いただいた「夏の芝浜」に続き、展示関連イベントとして落語会を開催しました。

日本橋に実在した料亭を舞台に、祭の話し合いをする町の人々と店の新入りがくりひろげる、聞き違いと早とちりが招いたちぐはぐなおはなし「百川」。下手な作品しかつくれない腰元彫りの名人の息子が、母親の決死の祈願によって心を入れ替え、奮起して自らも名人と呼ばれるまでを描いた人情噺「浜野矩随」。

二つの演目に、内容の解説や五代目・三遊亭円楽師匠のエピソードなどをふまえたトークでお楽しみいただきました。



台東区は伝統芸能とのかかわりが深い地域です。そうした文化に親しむ機会として、今後もイベントを開催したいと考えています。

時の鐘 上野寛永寺時の鐘と柏木家文書

2011年9月16日～12月14日

主に江戸時代、時刻を告げる手段として活躍した時の鐘。現在の台東区には浅草寺と上野寛永寺の二箇所に設置されていました。特に、上野寛永寺の時の鐘は今日も現役で時を知らせている鐘です。

その上野寛永寺時の鐘で明治末頃まで代々鐘撞と呼ばれ、時の鐘の管理・維持を担っていたのが柏木家です。近年、そうした時の鐘の運営に関わる文書が当館に収蔵され、日記や修繕願いなど合計14点にわたる文書を「寛永寺鐘撞預 柏木家文書」として、資料の画像データ化、翻刻作業をすすめています。

本展では、館蔵の「柏木家文書」を一部公開したほか、時の鐘が描かれた錦絵などを展示して、上野寛永寺時の鐘とその歴史をご紹介しました。

ゆかりの歴史散歩 「重要文化財 旧岩崎邸探訪」

2011年11月12日

講師…米山 勇氏（江戸東京博物館助教授）

明治29年に三菱創設者・岩崎家の本邸としてジョサイア・コンドルの設計によって建てられた旧岩崎邸。現存する洋館・撞球室・和館の3棟を、外観から内装までそれぞれの様式や特徴をわかりやすく解説していただきながらめぐりました。

台東区ゆかりの文学講座 「時の鐘～鐘は上野か浅草か～」

2011年12月3日

講師…浦井 祥子氏（徳川林政史研究所研究員）

上野寛永寺と浅草寺だけにとどまらず、日本各地の時の鐘の変遷やその歴史について写真や資料を交えて解説していただきました。

また、世界の他の都市との比較、時刻制度についてなど、多岐にわたってお話しいただき、質疑応答も活発に行なわれました。

谷中に眠る

2011年12月16日～2012年3月14日

古い起源を持つ感応寺を中心に、大きな寺町を形成していた谷中地域。郊外の自然豊かな地として知られていた谷中は、江戸庶民の行楽地でもありました。そこに東京府管轄の大規模な公共墓地がつくられたのは明治7年のことでした。以来、谷中霊園には時代・職業・宗教をこえて、さまざまな知名人が眠っています。

近年、知名人の墓参や散策に訪れる人も多く、また谷中周辺は情緒ある街並みや、昭和の名残を感じさせる雰囲気があいまって、話題の地域となっています。

実際に谷中へ足を運んで魅力を発見してほしいという願いから、本展では、明治期の様子と現在の様子の比較、知名人の墓地マップなどを展示したほか、谷中散策に役立ちそうなガイド本や雑誌を特設本棚に集めました。

郷土史講座 「谷中に眠る」

2012年2月23日・3月2日・3月9日

講師…加藤 芳典氏（文京ふるさと歴史館専門員）

展示に関連させて、墓地の歴史から谷中に眠る人々のこと、そこに眠る理由など、谷中霊園に関するテーマで、3回連続の講座を開催しました。

歴史・文化や人々など、日本の近代が凝縮されている場所として、新たな谷中の魅力を発見していただきました。

ゆかりの文学コーナー展示風景